



知っておきたい

# イノシシ対策

農作物を被害から守る基礎知識

—— 目次 ——

生態と特徴	2
対策 近づけない	3
対策 侵入させない	4
対策 捕獲する	8



岡山県





# 対策 近づけない

イノシシの被害対策は、地域ぐるみの取り組みがとても大切で、その第一歩となるのがイノシシを近づけない環境をつくること。まず、「行きたい・近づきたい」と思わせる要因を1つでも消して、イノシシにとって魅力のない集落にする。

取り組みが早ければ早いほど効果が高く、併せて、既設の防護柵の効果をも高めることができる。

## 餌付けになることをしない

生ゴミや野菜くずを田畑や山際に捨てない。捨てている場合は、すぐに回収するか、見えないように隠す。  
収穫の終わった野菜や果樹等の残渣を畑に残さない。  
収穫しない果樹や竹林を放置しない。不要な樹木は伐採する。  
2番穂（ヒコバエ）が食べられないように、稲刈りの終わった田は早く耕す。  
お墓のお供えは持ち帰る。



まとめて放置された果物

## 田畑に近づけない

休耕地や耕作放棄地は格好の寝床やヌタ場になったり、田畑への侵入口になるので、草刈りなど適正な管理を行う。和牛などを放牧することにより山と田畑の間に人と野生動物との緩衝地帯を設け、近づきにくくする方法も取り組まれている（7ページ参照）。

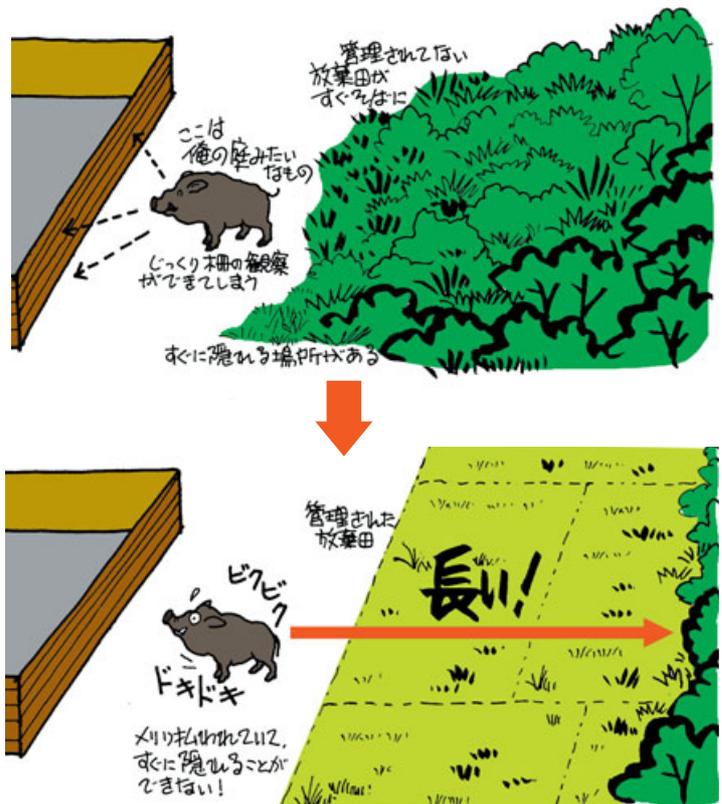
耕作放棄地等の問題は、集落全員の理解と協力で解決しよう。

警戒心を持たせるため、散歩や田畑の見回りはできるだけ山際の道を通り、「けもの道」を見つけたら歩いてみる。山際の草木の伐採や枝払いをして見通しを良くし、出没しにくく、逃げにくい環境をつくる。

田畑をエサ場だと覚えさせないためにも、生育期や収穫期だけでなく、年中追い払う。

女性・高齢者でも、出没当初から追い払いに参加しないと、逃げない習慣がついてしまうので、イノシシを見たらみんなで追い払う。

## イノシシの隠れ場所をなくしましょう！



畑の周りを2~3m刈り払うだけでも効果がある



# 対策 侵入させない

イノシシの被害を防止する設備には、物理的・心理的に侵入を防止するさまざまな資材がある。それぞれの資材の特徴を把握し、地形など自然条件を考慮して選択し、現場にあわせて正しく設置する。また、設備の効果が低下しないよう草刈りなどの維持管理や点検はこまめに実施する。

設置は、個人単独よりも、隣近所に声をかけて、共同で設置する方が効率的。川や道路など、一見イノシシが入ってきそうな面でなくても全体を囲う。

## トタン板

視覚を遮断する効果が高く、扱いやすい。

1枚だけでは高さが不足するので、2枚継ぎ足しや他の資材との組合せで、高さ1.2 m程度まで上げて、飛び越えられないように設置することが必要。

設置場所に起伏があると地面とトタン板のすき間ができて、そこに鼻を突っ込まれ、トタン板を持ち上げられるので、凸凹があればよくならし、草など刈った後に設置する。

トタン板同士の継ぎ目が破られやすいので、重なり部分は厚めにする。

押し倒されないように、支柱の強度と設置間隔にも注意する。



## ワイヤーメッシュ

ワイヤーメッシュは、丈夫な網線を縦横に溶接した建築資材で、視覚的遮断効果は無いが、上手に使用すれば強度に優れた柵として利用できる。

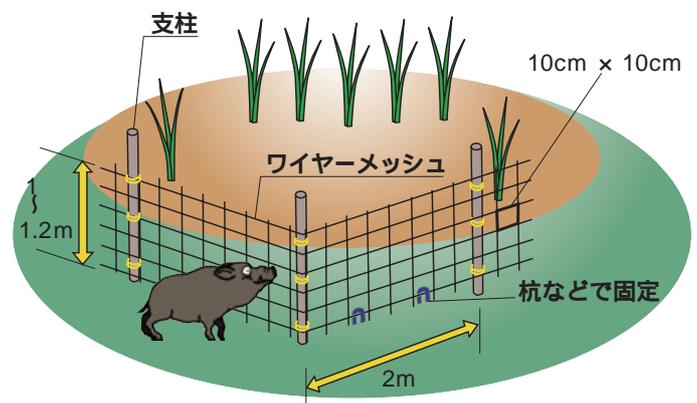
イノシシ専用タイプのもも販売されている。

網線が細いと折り曲げられ、升目が大きいとウリボウに侵入される。10cm升目で太さ6 mm程度のものを使用する。

飛び越えられないように十分な高さ(1 ~ 1.2 m)を確保する。

押し倒されたり、鼻で持ち上げられたりしないように適当な間隔で頑丈な支柱を立てる。

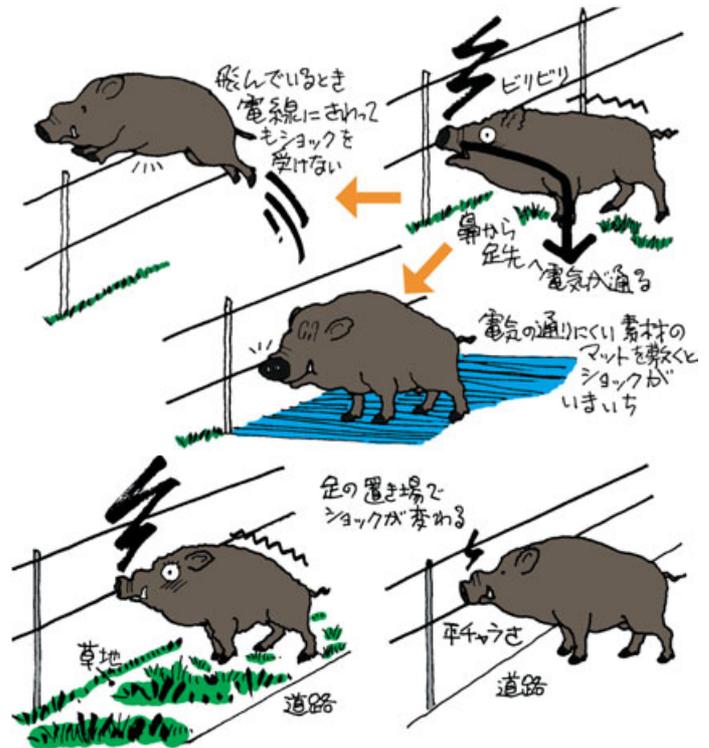
くぐり抜けられないように支柱の間に2 ~ 3カ所、杭などで固定する。



ワイヤーメッシュを使った柵の設置

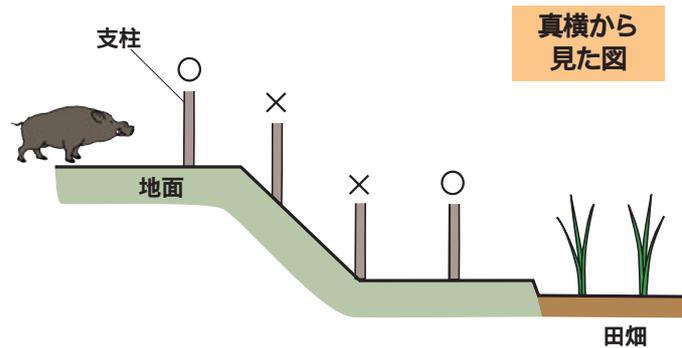
## 電気柵（ワイヤー式）

軽量で設置や収納が容易。  
 侵入防止効果が高く、何度も狙われている田畑にはお勧め。  
 背中などの毛皮部分は感電せず、鼻尖だけがよく通電する。  
 設置にあたっては、電気事業法等関係法令に留意し、人の感電や火災の恐れがないように設置する。  
 前足が土の上になるよう最低50cmは舗装道路から離して設置する。  
 電線を張り巡らせる高さは、20cm（歩行中の鼻の高さ）、40cm（停止中の鼻の高さ）、60cm（のぞき込んだ時の鼻の高さ）を基本とする。  
 支柱の押し倒しを防ぐため、支柱の外側に電線を張る。  
 周囲の草刈や通電の確認など、継続した管理を行い、漏電による効果低下に注意する。  
 除草のためといってゴムマットなど電気の通りにくい素材のマットは敷かない。  
 斜面や傾斜の終わったところでは、勢いで突き破られることがある。部分的に資材を補強するか、助走距離を短くするように電気柵の設置場所を変えてみる。  
 設置場所に起伏があると、地面と電線のすき間が広くなり侵入されることがあるので、部分的に支柱を追加し、20cm間隔を確保する。

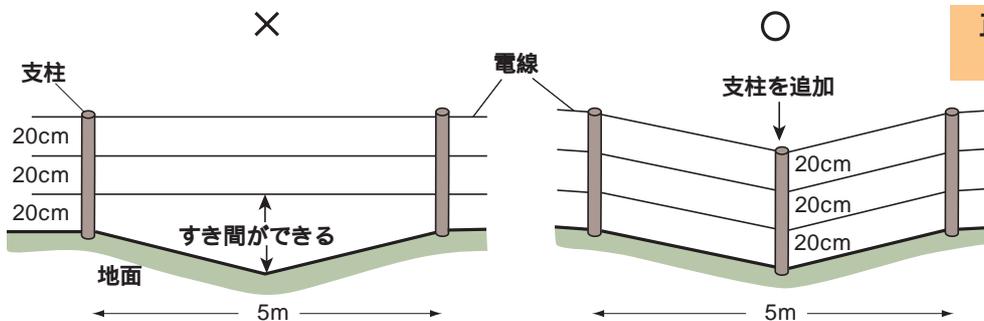


せっかくの電気柵もイノシシが地面に足を着けていないと効かない

電気柵の設置場所に注意しましょう！



斜面や傾斜の終わったところには設置しない



起伏のあるところでは、地面とのすき間ができないように設置する

## ネット類

起伏のある場所や斜面の多い場所での設置が容易。

編み目を押し広げられたり、食べられたりしないように10cm以上の編み目は避け、丈夫なものを選ぶ。

くぐり抜けられないように接地面を折り返したり、杭などで固定する。

イノシシは踏切位置は、柵などの障害物から20～40cmである。柵から手前に1mくらいの幅でネットを斜めに垂らすと、踏切位置が遠くなり、飛び越えを防止することができる。



イノシシの跳び込み防止には網をうまくつかう

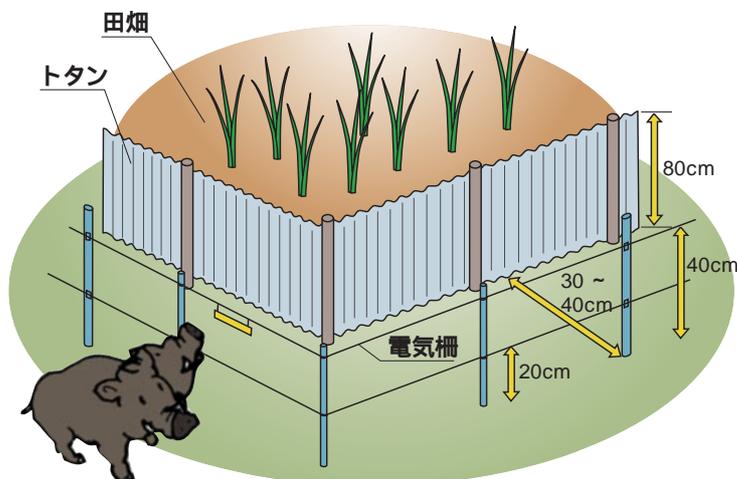
## トタン板 + 電気柵(ワイヤー式)

電気柵による侵入防止効果に加え、トタン板で視覚も遮断することにより設置効果が高い設備。

トタン板をほ場側に、電気柵をイノシシの侵入する側に設置する。

トタン板と電気柵との間隔を30～40cm程度に設置する。

各資材を組み合わせる場合は、それぞれの弱点を補うようにするとよい。島根県では、畦波板 + 電気柵(ワイヤー式)も普及している。



トタン板で目隠しし、電気柵で踏み切りを遠くする

## その他

### 金網

網の目合いは小さく、編み目を広げられないよう結束部位が丈夫なものを選び、くぐり抜けられないように地面と接する部分に杭などで補強する。忌避剤(木酢液、線香、人間の毛髪、芳香剤など含む)

環境の変化に戸惑うだけで、臭いには必ず慣れるので、期間限定、一時的な嫌がらせとして使用する。

### 天敵(人間)

イノシシが一番怖いものは人間。最も防除効果が高いのは、これまでになかった人の活発な動き。



イノシシの唯一の天敵は人間

## 里山・里地放牧

耕作放棄地などを電気柵（ワイヤー式）で囲い、1haにウシ1頭の割合で放牧する。イノシシがウシを嫌うわけではないが、草がなくなり、農地を保全管理し、景観を保ち、イノシシも寄り付かない一石三鳥の方法。



放牧のようす

(新庄村)

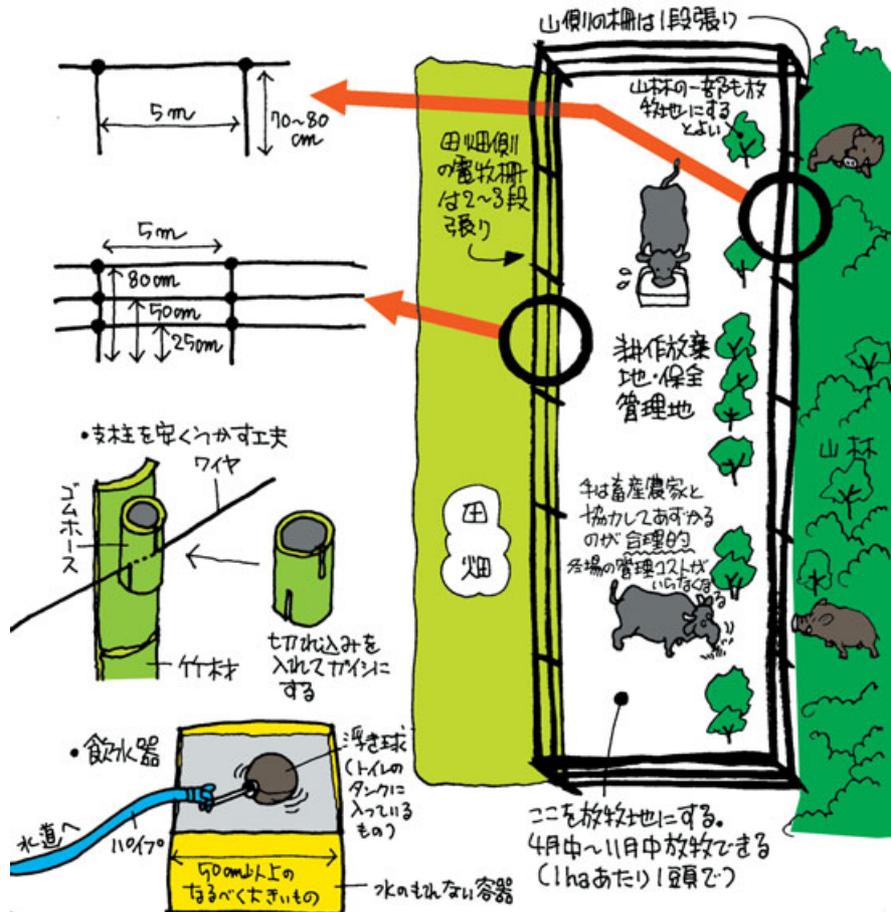


放牧前



放牧後

(総社市奥坂)



耕作放棄地と山林を囲んで放牧地を設置



# 対策 捕獲する

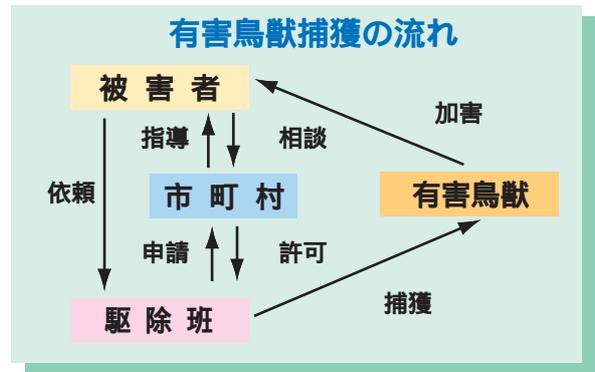
イノシシ対策としては、イノシシが嫌がる環境をつくる環境整備、田や畑を効果的に囲う防除対策、捕獲（駆除）による適切な個体数管理、この3つをバランスよく実施することが大切。

個体数管理には、下記の制度があるので、被害者（農家）、市町村、駆除班がよく連携・協力して実施することが重要。

## 有害鳥獣捕獲制度の活用

捕獲するには、有害鳥獣捕獲と狩猟の2つがある。有害鳥獣捕獲は、野生鳥獣により農作物に被害を受けたとき、市町村の許可を受けて駆除班が捕獲する制度。

被害を受けた場合は、市町村役場に相談する。



## 農家による捕獲（狩猟）

野生鳥獣を捕獲するには、狩猟免許が必要。実際に狩猟を行うには、狩猟者登録も必要。

最近では、被害を受けた農家が狩猟免許を取得し、自ら捕獲に取り組んでいる事例も増えている。平成18年度のイノシシ狩猟期間は、11月15日から翌年2月末日まで。

県では、狩猟免許試験を毎年7月頃実施している。免許取得を希望する場合は、最寄りの県民局農林水産事業部に相談する。

**狩猟免許の種類**

- 網・わな猟免許  
罠いわな、箱わな、くくりわな等
- 第一種銃猟免許  
散弾銃、ライフル銃、空気銃
- 第二種銃猟免許  
空気銃

## 問い合わせ先

詳しくは、最寄りの県民局農林水産事業部（農畜産物生産課<sup>1)</sup>・農業普及指導センター<sup>1)</sup>・森林課<sup>2)</sup>、または農業総合センター<sup>1)</sup>、県担当課（農業経営課<sup>1)</sup>・自然環境課<sup>2)</sup>へお問い合わせ下さい。

備前県民局農林水産事業部	TEL 086-224-3141（代）	岡山市弓之町6 - 1
備中県民局農林水産事業部	TEL 086-425-2111（代）	倉敷市羽島1083
美作県民局農林水産事業部	TEL 0868-23-2311（代）	津山市山下53
農業総合センター総合調整部普及指導課	TEL 0869-55-0271（代）	赤磐市神田沖1174 - 1
農林水産部農業経営課（被害防止）	TEL 086-226-7422（直）	岡山市内山下2 - 4 - 6
生活環境部自然環境課（捕獲）	TEL 086-226-7310（直）	岡山市内山下2 - 4 - 6

<sup>1)</sup>は被害防止対策、<sup>2)</sup>は捕獲関係の問い合わせ先

本冊子の内容は、農林水産部農業経営課のホームページ（<http://www.pref.okayama.jp/norin/nokeiei/nokeiei.htm>）にも掲載しています。

企画・発行 岡山県 制作 社団法人 農山漁村文化協会  
 写真提供 江口祐輔 岡山県 イラスト トミタ・イチロー 発行年月 平成18年3月  
 参考文献 江口祐輔「イノシシから田畑を守る」農文協  
 雑誌「月刊 現代農業」農文協  
 江口祐輔（編著）「鳥獣害対策の手引2002」日本植物防疫協会

複製・転載する場合は必ず岡山県及び制作者（農山漁村文化協会）の許諾を得て下さい。  
この冊子は再生紙を使用しています。